

# ESD ユネスコ世界会議交流セミナー報告書

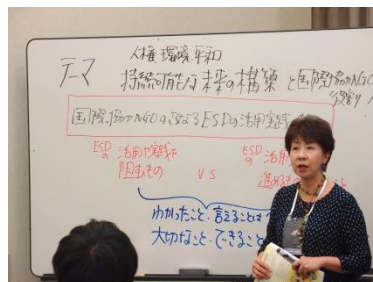
団体名 特定非営利活動法人 名古屋 NGO センター

## 【ESD ユネスコ世界会議の成果】

2014年11月12日(水)、名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)でESD ユネスコ世界会議の併催イベントとして「ESD ファシリテーターになりたい人集まれ ～国際協力NGOのニーズを知って活動の場を広げよう～」を開催しました。NGO関係者、教職員、行政関係者、大学生など計28名の参加があり、会の後半に行われたワークショップでは熱い議論が繰り広げられた。

会の前半では、8月より全国280団体を対象に実施したWEBアンケートや、11団体に行ったヒアリング調査の経過を報告した。ゲストスピーカーはESD実践団体としてアジア保健研修所(AHI)の羽佐田美千代さん、推進団体として中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)の新海洋子さん。自団体のESDについての思いを紹介していただいた。また後半では、NIED・国際理解教育センターの伊沢令子さんをファシリテーターとして、参加者がグループに分かれ、「国際協力NGOがESDを取り組むにあたって、必要なもの、阻むもの」を話し合った。

ワークショップでは、「活動が各分野で蝸壺化している」「教材が現場のニーズと乖離している」「環境統制感(locus of control)が欠如しているためESDへの取り組みを妨げている」などの声が上がリ、活動に関心を持たない人々をどう動かしていくかについて議論がなされた。



## 【今後の展望】

今回、WEBアンケート調査および団体へのヒアリングによって、国際協力NGOがESD取り組むためには、『活動の教材化』が鍵であることがわかった。ESDを推進し活動を広げていくにあたり、中小団体は教材化を進めたいというニーズがあり、そのノウハウが必要であるとアンケートを通して明らかになったからだ。

そのため来年2月に今回の調査結果とワークショップで得られたことを参考にした実践講座の開催を予定している。そこでは、各団体とのワークショップを通して、先の調査結果で明らかになったESDに対するニーズを明らかにする。また団体がリソースを教材化していくアウトラインを描いていく。

将来的には国際協力NGOがESDを推進していくモデルを作り出すことで、全国のNGOがESDを用いて活動を広げていくことを牽引したい。そのため、名古屋NGOセンターのネットワークを活用して、ノウハウを持つESD推進団体とリソースを持つ国際協力NGOが協働できる場を生み出し、シナジーが最大化される場を生み出したい。

